

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム友の里
(ユニット名)	グループホーム友の里
所在地 (県・市町村名)	鈴鹿市長沢町1750-1
記入者名 (管理者)	本村 まり子
記入日	平成 20年 11 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いが出来るよう努めている。</p> <p>○</p>	<p>地域の祭り、当事業所の盆踊り、への呼びかけ学校、地域の行事に参加している。</p>
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>施設フロアに掲示</p> <p>○</p>	<p>定例会議、職員の心得等を日常記録ファイルに添付し常に理解できるように取り組んでいる。</p>
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>施設の通信の配布</p> <p>○</p>	<p>毎月1度 施設内に交流記録等を掲示</p>
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>行事への参加の呼びかけ</p> <p>○</p>	<p>地域交流(行事)案内のチラシの配布や声がけ散歩時に声がけ</p>
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会、民生委員会への参加</p> <p>○</p>	<p>地域の祭り、当事業所の盆踊り、への呼びかけ学校、地域の行事に参加している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行事への参加の呼びかけ	○	地域交流(行事)案内のチラシの配布や声かけ 散歩時に声かけ
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の見直し	○	定例会議、職員の心得等を日常記録ファイルに添付し常に理解できるように取り組んでいる
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で生かされている。	○	自治会 包括センター 利用者の家族 によって話合った内容を検討、見直しをする 利用者
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域運営推進会議	○	鈴鹿亀山広域連合との連携 (近隣へ来たときに気軽に立ち寄っていただくように呼びかけをし行き来できる機会づくりに取り組んでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護研修の受講	○	職員に権利擁護の説明
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議等で話し合いを持っている。	○	高齢者虐待防止に関する理解浸透や遵守等を話しあっている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>重要事項説明書、契約書による説明</p>	○	<p>契約また退所時に重要事項説明書の提示にて、十分な説明を行っている</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>生活相談員、運営推進会議、広域への介入の申し出</p>	○	<p>利用者が気軽に会話できるように配慮している</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>月1回定期的に連絡、報告をしている</p>	○	<p>利用料請求時に、本人の健康状態、状況を「近況報告」として記載 来訪時、電話等でも状況応じ詳しく報告</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>運営推進会議、意見箱の設置、広報により意見を出せる仕組みを作っている</p>	○	<p>運営推進会議、意見箱の開示することで利用者、家族、地域の意見を聞き運営に反映させることができる</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>定例会議</p>	○	<p>定例会議時に意見を聞くようにしている 日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>利用者や、家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員の勤務の調整に努めている</p>	○	<p>利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、起床時や就寝時、夜間、入浴時等利用者の必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている 管理者は、何時でも利用者の状況に応じた体制が取れている</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>利用者個々の担当を決め交代で生活支援を行うよう配慮している</p>	○	<p>職員と一緒に衣類の整理等をする事により不満、心配ごとを気軽に話せる機会をつくる。一定期間(3ヶ月)で交代する事により職員交代によるダメージを防ぐ</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月段階に応じて研修の取り組みに努めている	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会加入	○	管理者、職員が地域の同業者と勉強会、施設見学を通じて交流や連携が行えるように取り組みをしている
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	親睦の場をつくり、気分転換が図れる機会を作っている
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、職員個々の勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	休憩の時間ゆったりできる場所の確保をしている
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所契約前に本人、家族との面談により本人家族の意向を傾聴する。	○	アセスメントシート(基本情報)希望要望、これまでの経過等の聞き取り
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前に本人、家族の希望、困っていることを聞く機会を作っている。 3～5日間の体験入所	○	本人の今までの生活歴、身体状況、趣味、嗜好要望等を把握し本人の希望に沿った介護に努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に本人、家族の希望、困っていることを聞く機会を作っている。 3～5日間の体験入所	○ 本人愛用の家具、衣類、食器等を利用して今までと変わらない生活ができるように支援している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や友人等が何時でも出入りできるような環境づくりをしている	○ 本人愛用の家具、衣類、食器等を利用して今までと変わらない生活ができるように支援している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人の思いを共感し、利用者個々の得意分やで力を発揮してもらい互いに感謝する関係を作っている。	○ 利用者個々の得意分野を把握し共に支えあえる関係作りに留意している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問できる機会をつくっている。	○ 月一回お便りで利用しゃさんの状況を報告している
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状況を見ながら、買い物や外食、外泊等を進めている。	○ 通院介助、墓参り、ホームでは年一度家族会を開き参加を呼びかけより良い関係の継続に努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの延長線上であるよう、本人をとりまく人や支えてきた人たちとの関係が途切れないよう配慮している。	○ 家族と連携し一人ひとりの生活習慣を尊重している
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係や力個性を上手く発揮できるよう配慮している。	○ 入居者個々の状態の変化、入居者同士の関係性の変化に応じた環境づくりをしている。ちょっとした空間を活かし居場所となる場所の確保

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域住民の方との交流の場への参加等を大切にしている。	○	地域小学校との交流、(運動会、文化祭、課外学習)自治会と9の高竜(地域の祭り)当への参加
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をの把握	○	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。又それとなく確認している。意思疎通が困難な場合には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や、ご家族、関係者などから聞き取るようにしている。利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどんな生活をしていたか聞いている。	○	本人や、ご家族、関係者などから聞き取るようにしている。利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどんな生活をしてたのかを聞いている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や生活のリズム	○	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	運営推進会議 サービス調整会議	○	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画と照らし合わせて、現時点の利用者や家族の状況、ニーズ、サービス提供状況の見直しをしている。	○	職員が情報を確認し、ご家族や本人の要望を取り入れつつ、機関が満了する前に見直し、状態が変化した際には、終了する前であっても検討見直しを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人個々の日常生活記録に介護計画を記載し計画にそって実践に生かしている。	○	個別にファイルし、食事、水分量、排泄等身体状況および日々の暮らしの様子や 本人の言葉、エピソード等を記録している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制のできる医療機関との契約	○	医療体制を活かし、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用 運営推進会議	○	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察や民生委員との意見交換をする機会を設けている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域資源の活用 運営推進会議	○	地域自治会、民生委員、小学校等、との意見交換をする場所を作っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域資源の活用 運営推進会議	○	運営推進会議に地域包括センターの職員や自治会長さん等の参加により周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制のできる医療機関との契約	○	基本は、家族同行の受診となっているが、不可能なときには、そくいんが代行するようにしている。利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。 本人やご家族の希望に応じて対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院のダメージを極力防ぐために医師と話をする機械を持ち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう、アプローチしている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行っている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう、また急変した場合は、すぐに対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り、対応している。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	他事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況を手渡すと共に、情報交換を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と、権利を守るため管理者、職員全体でプライバシーに向け話し合っている。	○ 職員会議の折に職員の意識向上を図ると共に、利用者のプライバシーを損ねない対応を話し合っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が選びや水曜に工夫している。	○ 複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決めるよう工夫している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活スタイルで暮らせるよう工夫している。	○ 基本的な一日の流れは持っているが、その日、そのときの本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。
いて			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々に合わせた支援をしている。	○ 本人主体で身だしなみを整えられるよう、不十分なところや乱れをさりげなく支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の材料や新鮮なものを取り入れ、利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫している。	○ 調理の下準備を職員と一緒にしたり、片付け等の手伝いを大切な活動の一つにしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みや意向を大切にしている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に合わせた支援をしている。	○	尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む人にたいして、言葉がけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	○	入浴したい日、希望する時間になるべく入浴できるように個々の状況を見ながら援助している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活のリズムに合った支援をしている。	○	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に見合ったこと、楽しみごと、役割を活かした支援をしている。	○	利用者個々の得意分野で力を発揮できるように支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、小額を手元に所持してもらっている。	○	外出(買い物、外食、)時には個々での支払いが出来るように工夫している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出できるように支援している。	○	天気、利用者の体調、気分等を見ながら(散歩、買い物、観劇、温泉、花見)など戸外に出かける支援をしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常的に外出できるように支援している。	○	本人の思いや願いを叶えられるよう、利用者、家族と相談し協力を得ながら実現に向けた支援をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に手紙や電話が出来るように支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来訪でき、ゆっくり会話できるよう支援している。	○	家族の都合のいい時間に何時でも尋ねてきて頂けるよう配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の押し送り等で、その日のケアを振り返り、点検している。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、さりげなく声をかけ自由な暮らしを支援できるように支援している。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の生活のリズムに合った支援をしている。	○	個々の排尿の習慣を把握しさりげない見守りをするよう支援している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要でない時間帯には(洗面所)等には施錠をしている。	○	洗剤や薬の保管場所には施錠をし安全の確保に取り組んでいる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っている。	○	事故や、ヒヤリハットに関する報告、記録をもとに事故防止に取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生への対応について施設内でも研修を行っている。	○ 事故時の対応、緊急時の対応の仕方を日常生活記録に添付してある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難経路の点検を行い、また年一回避難訓練を行っている。	○ 緊急時のマニュアルを作成し、事務所壁面に添付
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者個々に起こり得るリスクについて、家族に対して説明をしている。	○ 様々な役割活動や個々の力の発揮できるよう②支援している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者個々の表情、少しの変化の異常の兆候に気付き、速やかに報告連携を取るようになっている。	○ 普段の状況を職員は、把握しており、少しでも変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を日常生活記録に添付し効能、副作用等を職員全員が把握できるようにしている。	○ 服薬時は、本人に手渡し確認をしている。ご自分で服用できない方には、職員が服薬介助している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、家族、医師に相談し個々に応じた対応をしている。	○ 個々の排便の周期を排便チェック表で把握し、一人ひとりに見合った対応をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	側後の口腔のケアの促しの励行。	○ 毎食後の歯磨きの声かけを行いここに依じて職員が見守ったり、介助を行っている。日常生活記録に記載

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリー計算をされた食材の利用により必要な食事や水分が取れるよう支援している。	○	食事や水分量の摂取状況を毎日チェックし個々の日常生活記録に記載している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症について、マニュアルをキッチン の壁面に貼り日常的に把握し、対応出来るようにしている。 また事前に予防できる感染症については、(インフルエンザ 等)家族に相談の上予防接種等に対応している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の清潔の保持の励行(夜間塩素系漂白剤)浸け、 衛生管理をしている。 食材は、毎日使い切るようにしている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置き花を植え、家庭的な雰囲気作りに工夫している。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーに、色々な椅子を置くことにより個々に見合った居場所 所で過ごせるように工夫している。	○	フロアーの前に、ウッドデッキを設置、何時でも外の空気を 感じて頂けるようにしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーに、色々な椅子を置くことにより個々に見合った居場所 所で過ごせるように工夫している。	○	利用者個々の部屋に椅子を設置し気の合う利用者が何時 でも過ごせる環境を工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が愛用していた馴染みの物を持参いただくよう支援している。	○	在宅生活の雰囲気を持ち込むように工夫している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	できるだけ自然環境に近い換気・空調の調整管理をしている。	○	空調機の設置
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の状態に見合ったベットや家具の配置をしている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の分かる力を見極めて、個々の活動意欲がスムーズにできるように「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でできるのか」を職員全体で話し合い自立できるように工夫している。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りに色々な木を植えて四季折々を楽しんで頂けるよう工夫している。	○	テラスに藤の花を植え、庭には、果実や花の木を植えて利用者が何時でも楽しめるよう工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)